

ゴードン恵美「レターカッティング入門ワークショップ」2026

【初参加コース】

■ コースの概要

石に手彫りで字を彫るレターカッティング "Letter Cutting"（またはレターカービング "Letter Carving"とも呼ばれる）は現在も英国国内だけではなく、ヨーロッパの国々で続けられている伝統技術工芸です。この入門コースでは、レターカッティングの技術の1つである、ヴィーカット"V-Cut"と呼ばれる彫り方で文字を彫る技術と工程を学んでいただきます。このヴィーカットは、ローマ帝国時代に既にその手法が確立され、当時の石碑に使われていたローマンキャピタルの文字の多くはこの彫り方で彫られています。

イギリスではエドワード・ジョンストン（1872 - 1944）の教え子だったエリック・ギル（1882 - 1940）が、そのローマ時代の伝統的手法を彼の石碑に多用し、彼のワークショップ（工房）で培われたレターカッティングの精神、技術、そして教法は、彼の弟子達を通じて今なお多くの職人の中に息づいています。この入門コースはそのギルの弟子達の1人であったデービッド・キンダスリー (David Kindersley: 1915 - 1995) のワークショップ内で教えられていた手法と、これまでに私が参加したイギリス国内のレターカッティングのワークショップから得た経験を加味し、より受講者の作品作りとの親和性に重きを置いた教法で進められます。

また、コース内では文字のレターフォーム、デザイン等を参加者同士で検討し合うクリティーク（Critique）と呼ばれるローハンプトン大学で採用されていた教法を導入しています。このクリティークには、生徒それぞれの作品を参加者全員で様々な側面から観察、そして話し合う事でデザインの向上を目指すと共に、文字デザインの細部への重要性の認識や生徒の自発性を伸ばす側面もあります。

個人のペースに合わせてコースは進められますので、石を彫る作業までには至らないこともありますので、あらかじめご了承ください。

■ コースの目的

石の彫り方だけでなく、道具や石の取り扱い方にも重点を置き、職人の心構えを体感していただきます。

また、個々がデザインする文字に対して、より明確化した目的意識の認識や洗練された感覚への気づきを促します。

■ 今回使用する石の大きさ（縦×横×厚さ）

150 x 150 x 20 mmまたは、100 x 225 x 20mm

★ 受講確定後、 月 日までにご希望の石のサイズをワークショップ担当（fujiwara◎j-laf.org ◎を@に変換）へご連絡ください。

■ 参加資格

ローマンキャピタルをペンもしくは平筆を使って書いた事がある人。文字を鉛筆でドローイングした事がある人。

■ 事前準備

ワークショップで彫りたい石のサイズを上記のサイズから選びそのサイズに合わせてローマンキャピタルで1単語（例えば”ORIENT”など）を上下左右のマージンを考えながらレイアウトペーパーなどに描いてください。だいたいメインステムの幅が約5 mm ぐらいで、文字の高さがその幅の8から10個分の間の文字を目安としてください。もちろん、その他の大きさの字や数字でもかまいません。

■ 当日の持ち物

キッチンペーパー1ロール、カッターナイフ、カラダッシュ（CARAN d ACHE）社の水彩用色鉛筆の通常サイズの白を2本（カラダッシュ社のものが手に入らない場合は日本製の水彩用鉛筆でもかまいません）、HB の鉛筆2本、定規、三角定規、白または黄色のカーボンペーパー（文字を石に写すため）、エアパッキンまたはプチプチの包装用ビニール（石を保護するため）100 x 100 cm を2枚、マスキングテープ、古布（手ぬぐいなど）、カッティングマット

石を彫る道具のチズル（ノミ）とダミー（ハンマー）は当日ご購入いただけます。チズル1本とダミーでおおよそ15,000円くらいです。

■ 参考

J-LAF サイト内に、過去のレターカッティングWS レポートが載っています。こちらもどうぞご覧ください。

2010年 <http://j-laf.org/special/940.html>

2013年 <http://j-laf.org/special/600.html>

2019年 <http://j-laf.org/event/6232.html>